

患者さんへの情報公開文書

「^{ユーティイー}uTE シーケンスによる^{ティーツースター}T2* 値を用いた変形性関節症例における軟骨変性の解析」

はじめに

変形性関節症は、関節のクッションとして働く軟骨が磨り減ることで関節に炎症が起こりやすくなったり、荷重の繰り返しにより痛みを感じやすくなります。変形性関節症の発症は、加齢や遺伝的背景、スポーツなどによる使いすぎや体重負荷、ケガや靭帯損傷を契機に軟骨が磨り減り、進行して発症します。軟骨は、血管が存在しない組織であるため、一度損傷を受けると修復する能力が非常に乏しいです。このため重症化すると痛みによって行動が制限されたり生活の質が大きく低下するため、ときに手術的加療が必要になる場合があります。そのため、早い段階で軟骨の損傷を判断すること、そして進行を予防することが重要です。しかし、現在の日常診療で用いられている^{エムアールアイ}MRI は、軟骨の形態的变化を描出するのには優れていますが、早期に起こる軟骨の小さな損傷を評価することは厳しいのが現状です。もしこれらの評価が可能となれば、軟骨変性の進行予防や治療選択の基準を定める一助となる可能性があります。

研究対象

札幌医科大学附属病院を受診し、2019年9月12日から2024年3月31日までに膝または足関節痛を主訴にMRI検査を受けられた患者さんが対象です。予定症例数は100例です。

研究内容

通常診療で施行される膝または足関節MRI検査が必要な下記の患者さんに対し、軟骨変性の程度を数値化する撮像法を行います。

- ・ 膝および足関節に痛みを訴えて来院され診察やレントゲン画像などによって変形性関節症が疑われた患者さん
- ・ 外傷や靭帯損傷、離断性骨軟骨炎などの軟骨損傷または関節の不安定性によって変形性関節症へと進行する可能性がある患者さん

撮像で得られた画像から軟骨変性の程度を数値化し、患者さんに回答していただいた各種スコアと比較することで機能障害および治療効果との関連を明らかにします。MRIの撮像時期は、初診時および最終経過観察2年時までの期間（半年ごと）の合計5回です。

患者さんの個人情報の管理について

- ・ 個人情報の漏洩を防ぐため個人を特定できる情報は削除しています
- ・ 研究結果の公表（学会や論文等）の際には患者さんを特定できる情報は一切含まれません
- ・ 研究の目的以外に患者さんのデータを用いません

患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2019年9月12日から2024年3月31日までに膝または足関節痛を主訴に画像検査を受けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。参加しない場合や同意

を取り消した場合でも、患者さんに適切な治療を行い、治療上、不利な扱いを受けることや、不利益を被ることはありません。

ただし、ご連絡を頂いた時点ですでに、研究結果が論文などに公表されている場合や研究データの解析が終了している場合には、解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができない場合があります。

研究期間

2019年9月12日から2024年3月31日までを予定しております。

利用する情報

カルテ情報：診断名，年齢，性別，身長，体重

画像情報：レントゲン画像，MRI画像

その他：患者立脚型機能評価用紙

医学上の貢献

研究成果は、軟骨変性の進行予防や治療選択の基準を定める一助となる可能性があり、患者さんの治療と健康に貢献できると考えます。

問い合わせ先

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 整形外科

研究責任者：寺本篤史

研究分担者：渡邊耕太，神谷智昭，岡田葉平，村橋靖崇

【平日】整形外科学教室 tel 011-611-211（内線 33330）

【休日・時間外】附属病院4階西病棟 tel 011-611-2111（内線 38480）